

## [第654回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和5年2月16日(木) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 大阪放送 大会議室

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

出席委員の氏名 成瀬 國晴 河内 厚郎  
たつみ 都志 鎌田 雅子  
上林 寛和 徳永 潔

放送事業者側出席者の氏名

吉田 禎宏 赤松 加枝子

4. 議題

- 1) 「民放連 放送基準」一部改正に伴う大阪放送放送基準の変更について
- 2) 番組審議 『七田厚のわくわくわく子育て』
- 3) その他

## 5. 議 事 の 概 要

議題 1) 「民放連 放送基準」が一部改正されるのに伴い、大阪放送放送基準の変更が諮問され、「妥当である」との答申があった。

議題 2) 『七田厚のわくわくわく子育て』について、番組の企画意図と内容を説明し、意見を聞いた。

社 側 幼児教育の教室の運営、教材の販売をしている株式会社しちだ・教育研究所提供の15分の録音番組です。株式会社しちだ・教育研究所は、1976年に島根県の幼児教育研究科の創始者の七田眞が著書『0歳教育の秘密』を発売、ロングセラーとなったことをきっかけに、「認めてほめて愛して育てる」をキーワードに幼児教室を全国展開する会社です。番組では、七田眞の次男で現在の社長である幼児教育研究家、七田厚（こう）が、毎日の子育てをさらに素敵な子育てにしていくヒントをお届けしています。

放送回によって、しちだ式教室のメソッドや著書を紹介したり、関西のしちだ式教室の先生から教室の様子を聴いたり、リスナーからの子育てに関する質問にお答えしたりもしています。番組の最後には、全国の七田式教室で聴くことのできる歌をお送りしています。今回ご審議いただく内容は2022年12月3日と12月10日放送分です。

<各委員のご意見>

委 員 前からラジオで子育て番組があれば良いなと思っていた。今回の番組もどんな内容なのかと興味深く聴かせてもらった。一つ目のアルバムの話は、確かに自分の娘が赤ちゃんの頃の写真が昔の携帯に眠っていて、見なくなっているな、と思った。母がアルバムを作ってくれて、子どもの頃にそれを見た記憶がある。この20年位で習慣が消えてしまっている事に驚いた。自分が子育てをしている時に聞きたい話だった。

委 員 2人の掛け合いというか、桑原さんの合いの手がうまい。無駄な言葉が何も無い、文字に起こしてそのまま使えるなと思った。リスナーの対象が何歳位のお子さんを持つ親なのか気になった。七田先生の話では3歳位の話

されていたので、思春期で悩んでいる親御さんたちは過ぎ去って興味のない話になっている。放送週によってターゲットの年齢を変えるなど、工夫した方が良かった。

委員 七田さんの温かな話し方が聴きやすく、場面も浮かびやすい。素直に聴き進められた。教育関連事業をされているという事だったが、経営者のいやらしさも感じられず好印象だった。

委員 12月3日放送分では、アルバムの話だったが、自分の娘が社会人になった時にSDカードでこれまで撮りためた写真を渡したら喜んでくれた。写真を介在とした親子の絆の確認は、アナログでもデジタルでもできるのではないかと感じた。12月10日の内容は、生まれた後の働きかけによって個人の能力が伸びるという話。近年、「親ガチャ」という言葉が出てきたが、それに反対するメッセージを出したいのかなと思った一方で、教育を受けるためにはお金が必要で、深く考えると矛盾があると思った。全体的には聞きやすい番組だった。

委員 内輪ノリで話が進んでいる感じがする。親子で漢字能力検定受けたことの話をしている時に「漢検」と言っており、アシスタントを含め、正式名称を紹介していないのが気になった。音楽に関してもあまり好きになれなかった。言っている事は間違っていないと思うが、時間とお金にゆとりがある家庭の子育てだなと感じた。強いて言うと、きめ細かく色々なパターンの教育法を紹介して欲しい。結論としては、こういう番組があっても良いかな、と思った。

委員 土曜日夕方の時間帯に子育て中のお母さん・お父さんが聴いて、どのように感じるのかなあ、と思った。子育ては悩む事が多いと思う。昔はおばあちゃんに子育ての事をすぐに聴けたが、今は時代・環境が変わり、そういった事は難しい。悩んでいる人が多い分、反響も大きいのではないかと考えた。

社側 貴重なご意見、ありがとうございました。

以上